学生の確保の見通し等を記載した書類

目　　次

１．学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況 ･････････････････････2

（１）　学生の確保の見通し ･･･2

ア　定員充足の見込み･･･2

イ　定員充足の根拠となる客観的なデータの概要･････････････････････････3

ウ　学生納付金の設置の考え方･･･5

（２）学生確保に向けた具体的な取組状況･････････････････････････････････5

２．人材需要の動向等社会の要請･･･6

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）････････6

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたもので
あることの客観的な根拠･･･10

学生の確保の見通し等を記載した書類

１．学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し

ア　定員充足の見込み

①既設の体育科学研究科の定員充足の状況

本研究科は既設の体育科学研究科を改組し設置することとなるが、資料１のとおり既設研究科の過去5年間の入試データを集計すると、安定して志願者及び入学者を確保していることがわかり、長期的に定員充足を見込むことができる。併せて、入学定員数は妥当だと判断出来る。資料1

②基礎となる学部の定員充足の状況

資料２のとおり本研究科の基礎となる学部である体育学部、スポーツ文化学部、スポーツマネジメント学部の過去4年間の入試データを集計すると、過去4年間安定して定員を充足していることから、長期的な定員充足を見込むことが出来ると判断する。資料2

③体育学研究科体育学専攻博士前期課程スポーツマネジメントコースへの入学意思についての調査結果

本研究科は既設の体育科学研究科を改組して設置することとなるが、本研究科は既設の体育科学研究科が持っていた研究領域に加え、博士前期課程においてスポーツマネジメントを研究できるコースを設けることとなる。

本コースは、既設の学部であるスポーツマネジメント学部を卒業する学生が更に学び、研究ができる場としての位置付けがあるため、スポーツマネジメント学部生を対象に、本コースの紹介を含め入学意思等を確認するため資料３、４のとおりアンケート調査を実施した。

資料５は調査結果となるが、本コースに「興味がある」と回答したのは、全体の回答者196名中121名であり、4年生（回答時3年生）においては回答者71名中38名、3年生（回答時2年生）においては、回答者数64名中42名であった。

また、「学んでみたい」あるいは「条件が整えば学んでみたい」と回答したのは、全体の回答数196名114名であり、4年生（回答時3年生）においては回答者71名中37名、3年生（回答時2年生）においては、回答者数64名中39名であった。

これらの結果から本コースへの入学意思を備えていることがうかがえ、これでまでの既設研究科も十分に定員を充足していることから、更なる定員充足を期待できると判断する。資料3、4、5

④競合校の入学者状況

資料６のとおり競合校（体育スポーツ分野の研究科）の入試状況について調査した結果、志願者数を公表していない大学もあるが、安定して志願者及び入学者を確保しており、体育スポーツ分野を持つ大学への進学需要は安定していると考えられる。また、本学の体育学専攻は東京都世田谷区にあるキャンパスで授業を展開することとなり、立地条件の面でも優れているため、入学者の確保がより見込めると期待できる。資料6

イ　定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

① 既設の体育科学研究科の定員充足の状況　資料1

本研究科は既設の体育科学研究科を改組し設置する研究科であるため、既設研究科の過去5年間（平成29年度～令和3年度）の入学状況を資料1のとおり整理した。

資料のとおり、既設研究科の過去5年間の入試データを集計すると、安定して入学者を確保していることがわかり、過去5年間の入学者数を平均すると前期課程は45名、後期課程は16.2人、また志願者数の平均は前期課程が66.6人、後期課程は20.2人となり、入学定員を充足し、志願者も確保してことから長期的な定員充足を見込むことができる。併せて、入学定員数は妥当だと判断出来る。

② 基礎となる学部の定員充足の状況　資料2

本研究科の基礎となる学部である体育学部（体育学科、健康学科）、スポーツ文化学部（武道教育学科、スポーツ国際学科）、スポーツマネジメント学部（スポーツマネジメント学科、スポーツライフマネジメント学科）の過去4年間の入学状況を資料２のとおり整理した。

資料のとおり、過去4年間の入試データを集計すると、安定して定員を充足していることがわかる。平均入学定員超過率（過去4年平均）は、体育学部の健康学科を除き、全ての学科で1倍以上となっている。また、志願者数（過去４年平均）については、全ての学科において、入学定員を上回っていることがわかる。

以上のことから、基礎となる学部は安定して入学者を確保しているため、本研究科の長期的な定員充足を見込むことが出来ると判断する。

③ 体育学研究科体育学専攻博士前期課程スポーツマネジメントコースへの入学意思についての調査結果　資料3､4､5

a. 調査の概要

アンケート調査を以下の通り実施した。

◆調査対象

本学スポーツマネジメント学部の学生を対象とした。

（回答者数）

4年生（回答時3年生）　71名
3年生（回答時2年生）　64名
2年生（回答時1年生）　61名
合計　196名

◆調査方法
「資料3」のとおり、研究科・専攻名称、開設時期、立地場所、学費、養成する人物像、コースの特徴を説明の上、Webアンケート(選択肢式)を行った。

◆調査時期
令和2年1月下旬～3月上旬

◆調査内容
「資料4」のとおり選択肢式計9問の質問を行った。

ｂ.調査結果の概要
調査結果を「資料5」のとおり集計した。調査結果の概要については下記のとおりである。

◆調査結果の概要
「大学院スポーツマネジメントコースに興味を持ちましたか」の質問に対して、「はい」と回答したのは、学部4年生（回答時3年生）では、回答者71名中38名、学部3年生（回答時2年生）では、回答者64名中42名、学部2年生（回答時1年生）では、回答者61名中41名であった。
また、「大学院スポーツマネジメントコースで学んでみたいと思いますか」の質問対して、「学んでみたい」または「条件が整えば学んでみたいと思う」と回答したのは、学部4年生（回答時3年生）では、回答者71名中37名、学部3年生（回答時2年生）では、回答者64名中39名、学部2年生（回答時1年生）では、回答者61名中38名であった。
上記のとおり、各学年別に見ても回答者の半数以上が本コースに興味を持ち、進学意思が伺えるため、本コースについては長期的に志願者を確保することが期待できる結果となった。

④ 競合校の入学者状況　資料6
資料6のとおり本研究科と同分野を持つ競合校（体育スポーツ分野の研究科）の過去5年間（平成28年度～令和2年度）の入学者状況を整理した。
なお、本研究科と同様に博士前期課程と博士後期課程を持つ研究科を対象とし、博士前期課程と博士後期課程のそれぞれの入学定員、志願者数、入学者数（各大学のホームページより）を表にまとめている。
資料のとおり志願者数を公表していない大学もあるが、全ての研究科において、平均入学定員超過率（過去5年）が1倍を超える、あるいは1倍

近くになっており、安定して入学者を確保していることがわかることから、体育スポーツ分野を持つ研究科への進学需要は安定していると考えられる。

ウ　学生納付金の設定の考え方　資料7

日本私立大学振興・共済事業団のデータをまとめた「平成30年度私立大学大学院入学者に係る初年度学生納付金平均額（定員1人当たり）の調査結果について」(文部科学省ホームページより)によると、初年度学生納付金(授業料、入学料、施設設備費の合計)については、博士前期課程（修士課程を含む）の平均額(1人当たり)は1,041,456円であり、博士後期課程（博士課程を含む）の平均額(1人当たり)は858,093円である。また、資料7のとおり同系研究科を設置する近隣の大学の学生納付金を参考とし、併せて本研究科は既設の体育科学研究科を改組し設置する研究科であることを踏まえ、既設研究科と同様の金額を設定することが妥当であると考え、以下の通り学生納付金を決定した。

入　学　金：300,000円
授　業　料：738,000円
健康管理費：　10,000円

（２）学生確保に向けた具体的な取組状況

①インターネット等を利用した広報活動の展開

本学の教育・研究活動、クラブ活動、地域・社会貢献活動等に関する情報を広く社会に発信できるようホームページが開設されているため、体育学研究科についての情報を、ホームページを利用して発信していく。

また、本学の学生に対しては、大学のポータルサイトを利用して情報を発信していく。

なお、資料3～5のとおり、体育学研究科の紹介を兼ね、進学意思を確認するためのWebアンケートを実施し、体育学研究科への興味関心についての反応を確認している。

②専攻所属教員による進学相談の実施

本研究科の専任教員のオフィスアワーを利用し、大学院進学希望者の個別進学相談を実施し、学生募集体制を強化する。

③学生納付金の減免制度

本学卒業生については、入学金(30万円)の半額を免除する。なお、博士前期課程を修了し、継続して博士後期課程に進学する学生については、入学金を免除する。

その他、各種の公的な奨学金制度の活用を奨励する。

２．人材需要の動向等社会の要請

①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本研究科が養成の目的とする人材像や教育研究上の目的について、次のとおり、課程毎、学位プログラム毎に示す。

（１）博士前期課程

１）体育科学学位プログラム

♦ディプロマ・ポリシー

本学大学院学則に規定する所定の年限以上在学し、本学の教育研究の理念と目的に沿って設定した所定の単位を修得し、修士論文の審査および試験に合格した上で、次の能力を有することが認定されたものに修士（体育科学）の学位を授与する。なお、修士論文の審査基準については別に記載する。

体育スポーツ科学に関する幅広い学識

体育スポーツ科学に関する高度な専門的知識

体育スポーツの指導者としての基礎的能力

体育スポーツ科学の発展に寄与する研究者としての基礎力

国際社会に貢献する意志とコミュニケーション力

♦養成される人材例

高度な指導能力を有する指導者、中学校・高等学校教員

スポーツ・武道・舞踊に関する高度な能力を有する中学校・高等学校教員

スポーツマネジメントに係わる高度職業人

体育・健康・スポーツに関する基礎的知識をもった高度職業人、ジャーナリストなど

体育スポーツ科学の研究者

２）体育実践学学位プログラム

♦ディプロマ・ポリシー

本学大学院学則に規定する所定の年限以上在学した上で、本学の教育研究の理念と目的に沿って設定した所定の単位を修得し、「実践課題学期小論文」の審査に合格した上で、次の能力を有することが認定されたものに修士（体育実践学）の学位を授与する。

体育学に関する幅広い学識と研究基礎力

体育スポーツの指導者あるいはスポーツマネジメント実践者としての高度な専門的知識

体育スポーツの指導者あるいはスポーツマネジメント実践者としての実践力

国際社会に貢献する意志とコミュニケーション力

♦養成される人材例

高度な指導能力を有する中学校・高等学校教諭、養護教諭

スポーツマネジメントに係わる高度職業人

体育・健康・スポーツに関する専門的知識を有する高度職業人、ジャーナリストなど

３）コーチング科学学位プログラム

♦ディプロマ・ポリシー

本学大学院学則に規定する所定の年限以上在学し、本学の教育研究の理念と目的に沿って設定した所定の単位を修得し、修士論文の審査および試験に合格した上で、次の能力を有することが認定されたものに修士（コーチング科学）の学位を授与する。なお、修士論文の審査基準については別に記載する。

体育スポーツ科学に関する幅広い学識

コーチング学に関する学識と専門的知識

コーチおよびコーチ育成者としての基礎的能力

体育スポーツ科学の発展に寄与する研究者としての基礎力

国際社会に貢献する意志とコミュニケーション力

♦養成される人材例

高度なコーチング能力やマネジメン能力を有するスポーツ指導者

スポーツ・武道・舞踊に関する高度なコーチング能力を有する教員

競技スポーツに関する高度職業人、ジャーナリスト

コーチ育成者(Coach　developer)

コーチング学の研究者

４）コーチング実践学学位プログラム

♦ディプロマ・ポリシー

本学大学院学則に規定する所定の年限以上在学し、本学の教育研究の理念と目的に沿って設定した所定の単位を修得し、実践課題学期小論文(仮称)の審査に合格した上で、次の能力を有することが認定されたものに修士（コーチング実践学）の学位を授与する。

体育学に関する幅広い学識と研究基礎力

コーチング実践に関する専門的知識と技能

コーチおよびコーチ育成者としての基礎的能力

国際社会に貢献する意志とコミュニケーション力

♦養成される人材例

高度なコーチング能力やマネジメン能力を有するスポーツコーチ・指導者、中学校・高等学校教員

競技スポーツに関する高度職業人、ジャーナリスト

コーチ育成者(Coach　developer)

（２）博士後期課程

１）体育科学学位プログラム

♦ディプロマ・ポリシー

本学大学院学則に規定する所定の年限以上在学し、本学の教育研究の理念と目的に沿って設定した所定の単位を修得し。博士論文の審査および試験に合格した上で、次の能力を有することが認定されたものに博士（体育科学）の学位を授与する。なお、博士論文の審査基準については別に記載。

体育スポーツ科学に関する幅広く、かつ高度な学識

体育スポーツ科学に関する高度な専門的知識

体育スポーツ科学の研究者として自立して活動できる高度な研究能力

国際社会に貢献する意志とコミュニケーション力

♦養成される人材例

高度な指導力やマネジメント能力を有する体育スポーツ指導者

体育スポーツ科学の研究者、大学教員

体育スポーツ指導者の育成者、大学教員

２）コーチング科学学位プログラム

♦ディプロマ・ポリシー

本学大学院学則に規定する所定の年限以上在学し、本学の教育研究の理念と目的に沿って設定した所定の単位を修得し、博士論文の審査および試験に合格した上で、次の能力を有することが認定されたものに博士（コーチング学）の学位を授与する。なお、博士論文の審査基準については別に記載する。

体育スポーツ科学に関する幅広く、かつ高度な学識

コーチング学に関する高度な専門的知識

体育スポーツ科学あるいはコーチング学の研究者として自立して活動できる高度な研究能力

コーチ育成者としての高度な能力および研究能力

国際社会に貢献する意志とコミュニケーション力

♦養成される人材例

高度なコーチング能力やマネジメン能力を有する上級コーチ
競技スポーツに関する研究者
コーチ育成者(Coach　developer)
コーチング学に関する研究者

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえたものであることの客観的な根拠

平成 23（2011）年 8 月 24 日から施行された「スポーツ基本法」には、その前文において我が国が「スポーツ立国の実現を目指し、国家戦略として、スポーツに関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、この法律を制定する」と記されている。スポーツ基本法の制定を受けて、中央教育審議会は平成 24（2012）年 3 月 21 日に「スポーツ基本計画の策定について」答申を上げており、そこでは今後 10 年間を通じたスポーツ推進の基本方針が示されたうえで、最初の 5 年間に達成すべき目標について具体的記述がされている。ここでは 7 つの取り組むべき施策が示されており、なかでも「1.学校と地域における子どものスポーツ機会の充実」「2.若者のスポーツ参加機会の拡充や高齢者の体力つくり支援等ライフステージに応じたスポーツ活動の推進」「3.住民が主体的に参画する地域のスポーツ環境の整備」「4.国際競技力の向上に向けた人材の育成やスポーツ環境の整備」「7.スポーツ界における好循環の創出に向けたトップスポーツと地域におけるスポーツとの連携・協働の推進」といった施策を下支えし、これらの推進に大きな力となってきたのは、体育・スポーツの指導に携わってきた人々であった。また、「5.オリンピック・パラリンピック等の国際競技大会等の招致・開催等を通じた国際交流・貢献の推進」「6.ドーピング防止やスポーツ仲裁等の推進によるスポーツ界の透明性・公平・公正性の向上」についても、その中の一部は体育・スポーツの指導者、研究者が深く関わるものである。

平成 25（2013）年 9 月 7 日の 2020 年（2021 年）の東京オリンピックが開催されることになった国際オリンピック委員会（IOC）総会でのプレゼンテーションにおいて安倍晋三内閣総理大臣は「スポーツ・フォー・トゥモロー」」構想を紹介し、我が国が本格的にスポーツによる国際貢献に取り組むことを表明した。このことによって、スポーツ・フォー・トゥモローのプログラムが具体的に走り出し、「スポーツを通じた国際協力及び交流」「国際スポーツ人材育成拠点の構築」「国際的なアンチドーピング推進体制の強化支援」「スポーツ振興の前提となる途上国の青少年の育成を草の根レベルで支援」を柱として、平成 26（2014）年から平成 32（2020）年まで開発途上国をはじめとする 100 か国以上の国において、1000 万人以上を対象とするプログラムとなった。このプログラ

ムは、スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアムによって運営され「スポーツの普及と国際的競技レベルの向上」「スポーツの力で世界を変える（平和と開発）」「スポーツ交流を国民的文化に」という指針のもとに事業展開がされた。こうした事業の中で、やはり重要な役割を果たすのが体育スポーツの指導者や研究者の存在である。本学はこのスポーツ・フォー・トゥモロー事業の委託先として、「国際スポーツ人材育成拠点の構築」に関わり、「NSSU Coach Developer Academy」の運営を行なった。

さらに、平成 25（2013）年に文部科学省副大臣のもとに設置された「スポーツ指導者の資質能力向上のための有識者会議（タスクフォース）」の報告書には、我が国のスポーツ現場から体罰、暴力を一掃することに加えて、少子高齢化や高度情報化、グローバル化の進展といったスポーツや社会を取り巻く環境の変化に対応するために「新しい時代にふさわしいコーチング及びコーチ」を確立する必要があると提言され、「コーチング推進コンソーシアム」により「モデル・コア・カリキュラム」作成事業が行われている。また本学は、平成 28（2016）年に「モデル・コア・カリキュラム」のトライアル（委託事業）先となっている。

このように体育スポーツ指導者の育成、それを裏打ちする体育スポーツの研究の推進は、2020（2021）年東京オリンピック・パラリンピックの開催、そして開催後も見据えて新しい時代を迎えており、これに十分に対応する実践的教育と研究機関の必要性が求められている。

この 10 年足らずの間に我が国において体育スポーツ、特にスポーツは日常生活において不可欠なものの１つになったと言えよう。我が国の体育スポーツ指導者の能力は向上しつつあるが、Human Rights Watch が 2020 年 7 月の報告書(「数えきれないほどたたかれて」)において指摘(警告)があったことに注意しなければならない。そのためには、我が国における体育スポーツ指導者の資質向上、言い換えると科学的に裏付けられた、あるいは科学的思考ができるようにトレーニングされた高度な指導者の養成及び輩出が不可欠であり、その裏づけとなる体育スポーツ科学の研究を推進する必要があるのは言うまでもないことである。

中央教育審議会大学分科会の審議まとめ（2019 年 1 月 22 日）では、近未来を見据えた大学院教育のあるべき姿の１つとして、「知のプロフェッショナル」の十分な育成に向けた大学院教育の改善を提唱している。ここでは、「知のプロフェッショナル」として養成すべき人材として、①創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者等、②高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人」、③確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた大学教員、④知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある人材の４つを挙げている。このような大学院で養成すべき人材を体育学分野に当てはめてみると、体育学の基礎的分野を担う研究者や大学

教員の養成は言うに及ばず、体育学の特徴である実践的分野の研究者や大学教員の養成に加え、実践現場の課題を適切に解決できる高度な実践的知識を有した高度職業人あるいは学術的実践家（Scholastic practitioner）の養成を図る必要がある。

資　料　目　次

【資料 1】日本体育大学体育科学研究科博士前期・後期課程入試状況 平成 29 年度～令和 3 年度

【資料 2】日本体育大学学部入試状況　平成 30 年度～令和 3 年度

【資料 3】大学院体育学研究科博士前期課程：スポーツマネジメントコースの紹介

【資料 4】「スポーツマネジメントコース」の設置に関わるアンケート調査について

【資料 5】アンケート集計結果

【資料 6】競合校の入学者状況（体育スポーツ分野の研究科）

【資料 7】競合校との学生納付金比較

体育科学研究科博士前期・後期課程　入学状況 平成29年度～令和3年度

区分		項目	令和3年度	令和2年度	平成31年度	平成30年度	平成29年度	平均
博士前期課程（合計）（体育科学専攻＋コーチング学専攻）		入学定員超過率	1.32	1.24	1.29	1.24	1.44	1.3
		入学者数	49	46	48	46	36	45
		志願者数	61	60	70	74	68	66.6
		入学定員	37	37	37	37	25	34.6
博士前期課程（内訳）	体育科学専攻 博士前期課程	入学定員超過率	1.28	1.04	1.4	0.96	1.44	1.22
		入学者数	32	26	35	24	36	30.6
		志願者数	39	39	47	43	68	47.2
		入学定員	25	25	25	25	25	25
	コーチング学専攻 博士前期課程	入学定員超過率	1.41	1.66	1.08	1.83	平成30年度より開設	1.49
		入学者数	17	20	13	22		18
		志願者数	22	21	23	31		24.25
		入学定員	12	12	12	12		12
博士後期課程（合計）（体育科学専攻＋コーチング学専攻）		入学定員超過率	2.55	1.66	1.88	1.55	2	1.92
		入学者数	23	15	17	14	12	16.2
		志願者数	25	22	22	18	14	20.2
		入学定員	9	9	9	9	6	8.4
博士後期課程（内訳）	体育科学専攻 博士後期課程	入学定員超過率	3	2.16	1.83	1.66	2	2.13
		入学者数	18	13	11	10	12	12.8
		志願者数	20	18	14	14	14	16
		入学定員	6	6	6	6	6	6
	コーチング学専攻 博士後期課程	入学定員超過率	1.66	0.66	2.0	1.33	平成30年度より開設	1.41
		入学者数	5	2	6	4		4.25
		志願者数	5	4	8	4		5.25
		入学定員	3	3	3	3		3

資料2

日本体育大学学部入試状況　平成30年度～令和3年度

区分		項目	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平均入学定員超過率
体育学部	体育学科	入学定員超過率	1.06	1.02	1.01	1.02	1.03
		入学者数	802	769	758	769	
		合格者数	965	947	897	869	
		受験者数	2357	2335	3036	3001	
		志願者数	2446	2421	3123	3104	
		入学定員	750	750	750	750	
	健康学科	入学定員超過率	0.87	0.98	1.01	1.00	0.97
		入学者数	170	193	198	196	
		合格者数	299	319	290	333	
		受験者数	405	916	710	1192	
		志願者数	431	950	730	1264	
		入学定員	195	195	195	195	
スポーツ文化学部	武道教育学科	入学定員超過率	0.88	1.06	1.04	1.00	1.00
		入学者数	88	106	104	100	
		合格者数	91	117	116	111	
		受験者数	94	176	155	142	
		志願者数	94	180	162	143	
		入学定員	100	100	100	100	
	スポーツ国際学科	入学定員超過率	0.86	1.1	1.03	1.08	1.02
		入学者数	86	110	103	108	
		合格者数	255	246	177	167	
		受験者数	296	401	645	475	
		志願者数	311	428	662	489	
		入学定員	100	100	100	100	
スポーツマネジメント学部	スポーツマネジメント学科	入学定員超過率	1.06	1.07	1.04	1.04	1.05
		入学者数	154	156	152	151	
		合格者数	243	253	226	236	
		受験者数	647	980	1106	1058	
		志願者数	669	1011	1139	1101	
		入学定員	145	145	145	145	
	スポーツライフマネジメント学科	入学定員超過率	1.05	1.00	1.01	1.02	1.02
		入学者数	116	110	112	113	
		合格者数	187	236	189	168	
		受験者数	320	549	915	386	
		志願者数	328	573	945	414	
		入学定員	110	110	110	110	

【大学院体育学研究科博士前期課程：スポーツマネジメントコースの紹介】

1．開　設　年　度　　2022 年度（令和 4 年度）
2．組　織　名　称　　体育学研究科体育学専攻博士前期課程スポーツマネジメントコース
3．学　位　名　称　　「修士（体育実践学）」又は「修士（体育科学）」
4．キ ャ ン パ ス　　東京・世田谷キャンパス
5．学　　費　　入　　学　　金：300,000 円（日体大からの入学者は半額）
　　授　業　料（年間）：738,000 円
　　健　康　管　理　費：10,000 円

6．コースの特徴

2022 年 4 月に開設予定の体育学研究科体育学専攻博士前期課程スポーツマネジメントコースでは、スポーツマネジメントに関する高度な知識と技能を有した研究者及び職業人の育成を目指します。

現代社会がスポーツに求めるものは、増々多様で高度になっています。このため、近年ではスポーツ特有のマネジメントやスポーツによる社会課題の解決のためのマネジメントなどに関する研究が求められるとともに、スポーツマネジメントの各種現場では高度なスポーツマネジメント能力が求められています。

ヨーロッパや北米においては、学部卒業生だけではなく既にスポーツマネジメント関連の職にある実務者が、自身の論理的思考や実践力、リーダーシップなどを高めるためにスポーツマネジメント大学院やビジネススクールに入学するのはこのためです。我が国でも同様の傾向が見られ、今後この傾向は一層強くなると考えられます。

このため、本コースでは、例えば、以下のようなスポーツマネジメントを対象とした最新のスポーツマネジメント研究の理論と実践に有益なカリキュラムを準備しています。

・政府や中央競技団体などのトップスポーツのマネジメント。
・プロスポーツクラブ、フィットネスクラブ、地域スポーツクラブなどのスポーツクラブのマネジメント。
・プロリーグやメディアスポーツなどのマネジメント。
・健康スポーツや身体活動などのマネジメント。
・スポーツ政策、スポーツによるまちづくりや地域活性化などのマネジメント。
・スポーツイベント、スポーツ用品・ヘルスケア、スポーツ施設（スタジアム・アリーナ）など各種ビジネスのマネジメント。

そして、これらのカリキュラム展開のためには、研究者で且つ実務経験者である教員を配置するとともに、既に本学や教員が構築しているスポーツ機関・団体、スポーツ関連企業等との強固なネットワークを積極的に活用していきます。これは、他の大学院とは違う本コースの特徴といえます。

次ページに続く（教育課程表）

【教育課程表】

体育学研究科　体育学専攻　博士前期課程（体育科学学位プログラム・体育実践学学位プログラム）

スポーツマネジメントコース

区分	科目	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由
共通科目	研究科	体育スポーツ科学論A	1前	2		
		体育スポーツ科学論B	1前	2		
		体育スポーツ科学論C	1前	2		
		体育スポーツ科学研究法	1前	2		
		研究報告演習	1前	2		
基礎科目	スポマネコース	スポーツマネジメント特論	1前	2		
		スポーツマネジメント研究法	1前	2		
		スポーツマネジメント演習	1前	2		
展開科目	スポマネコース	トップスポーツマネジメント特論	1･2前		2	
		スポーツクラブマネジメント特論	1･2前		2	
		健康スポーツマネジメント特論	1･2前		2	
		トップスポーツマネジメント特論演習	1･2後		2	
		スポーツクラブマネジメント特論演習	1･2後		2	
		健康スポーツマネジメント特論演習	1･2後		2	
		スポーツ政策学特論	1･2前		2	
		スポーツマーケティング特論	1･2前		2	
		経営戦略特論	1･2前		2	
指導科目	研究	研究指導Ⅰ	1通	2		
		研究指導Ⅱ	2通	2		

区分	科目	授業科目の名称	配当年次	授業科目の名称	配当年次
他コース展開科目（全て選択科目）		スポーツ史特論	1･2前	機能解剖学特論	1･2後
		スポーツ人類学特論	1･2前	分子運動生理学特論	1･2後
		スポーツ哲学特論	1･2前	スポーツ損傷特論	1･2後
		スポーツ社会学特論	1･2前	身体教育学特論	1･2後
		スポーツ史特論演習	1･2後	健康教育学特論	1･2後
		スポーツ人類学特論演習	1･2後	学校保健学特論	1･2後
		スポーツ哲学特論演習	1･2後	公衆衛生学特論	1･2後
		スポーツ社会学特論演習	1･2後	養護教諭特論	1･2後
		武道学特論	1･2前	インクルーシブ体育特論	1･2後
		トップスポーツマネジメント特論	1･2前	教育心理学特論	1･2後
		スポーツクラブマネジメント特論	1･2前	教育制度学特論	1･2後
		健康スポーツマネジメント特論	1･2前	授業づくり特論A	2前
		トップスポーツマネジメント特論演習	1･2後	授業づくり特論B	2前
		スポーツクラブマネジメント特論演習	1･2後	授業づくり特論C	2前
		健康スポーツマネジメント特論演習	1･2後	授業づくり特論D	2前
		スポーツ政策学特論	1･2前	スポーツの危機管理（アンチドーピングを含む）	1･2前
		スポーツマーケティング特論	1･2前	コーチングのエスノグラフィー	1･2前
		経営戦略特論	1･2前	コーチングのバイオメカニクス	1･2前
		トレーニング学特論	1･2後	スポーツ戦術論	1･2前
		スポーツ生理学特論	1･2後	個人型スポーツコーチング論	1･2後
		アスレティックトレーニング学特論	1･2後	対人型スポーツコーチング論	1･2前
		スポーツ栄養学特論	1･2後	チーム型スポーツコーチング論	1･2後
		スポーツバイオメカニクス特論	1･2後	競技者体力学特論	1･2前
		スポーツ心理学特論	1･2後	コーチング学演習Ⅱ	2通
		競技力向上サポート特論	1･2後	コーチング実践演習Ⅰ（プラクティカム）	1通
		運動衛生学特論	1･2後	コーチング実践演習Ⅱ（プラクティカム）	2通
		スポーツ医学特論	1･2後	コーチのための英語コミュニケーション	1･2後
		運動生理学特論	1･2後	コーチ育成論Ⅱ	2前
		発育発達特論	1･2後	パフォーマンス分析特論	1･2後

修了要件及び履修方法

（修了要件）
＜修士（体育科学）の学位を取得する場合＝体育科学学位プログラム＞
2年以上在学し、修了に必要な授業科目を30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。

＜修士（体育実践学）の学位を取得する場合＝体育実践学学位プログラム＞
2年以上在学し、修了に必要な授業科目を30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文に代わる実践の場における課題についての研究成果の審査及び最終試験に合格することとする。

（履修方法）
共通科目を10単位、所属するコースの基礎科目を6単位、展開科目の中から10単位以上、研究指導科目を4単位の計30単位以上修得すること。
なお、展開科目については他の学位プログラム又はコースの展開科目を履修し、単位を修得することができる。

大学院:「スポーツマネジメントコース」の設置に関わるアンケート調査について

現在、本学大学院の体育科学研究科を改組し、新たな研究科（体育学研究科）を設置する予定であり、その中にはスポーツマネジメントを学び、研究ができる「スポーツマネジメントコース」を設置することを検討しております。

このスポーツマネジメントコースの設置を検討するにあたり、スポーツマネジメント学部生の皆様より、ご意見をいただければと思います。

コースの紹介は以下の URL より確認できます。

https://drive.google.com/file/d/1JBG1PuwsVIzybi7GiadIap7pyqD6cf66/view?usp=sharing

アンケート回答へのご協力よろしくお願いします。

アンケート項目

１．学籍番号を教えてください。　　英数字は半角大文字

２．所属学科を教えてください。
①スポーツマネジメント学科
②スポーツライフマネジメント学科

３．現在の学年を教えてください。
3 年生
2 年生
1 年生

４．大学院スポーツマネジメントコースに興味を持ちましたか
①はい
②いいえ

５．質問４で①「はい」と回答した人にお聞きします。大学院スポーツマネジメントコースで学んでみたいと思いますか。
①学んでみたいと思う　　②条件が整えば学んでみたいと思う　　③どちらかと言えば思わない　　④思わない

６．質問５で①②と回答した人にお聞きします。あなたが上記の大学院スポーツマネジメントコースで学ぶとす

れば、その目的は何ですか？（複数選択可）
①修士学位の取得のため
②研究能力や知識の獲得・向上のため
③ビジネスの実践的なスキルの獲得・向上のため
④キャリアの選択肢を広げるため
⑤大学教員や他の院生とのネットワークづくりのため
その他（　　）

７．質問５で②と回答した人にお聞きします。どのような条件が整えば学びたいですか？（複数選択可）
①入学金や授業料を工面できれば
②保護者の理解が得られれば
③授業の内容が魅力的であれば
④終了後のキャリアが明確なら
⑤その他（具体的に教えてください※以下に記入）

８．あなたが大学院スポーツマネジメントコースに通う場合、どのような時間帯を希望しますか。(1 つ選択)
①平日昼間　②平日夜間　③週末昼間　④週末夜間

９．質問 8 の回答の理由を教えてください。

アンケート集計結果

No.	質問	回答	4年生 （回答時3年生）		３年生 （回答時2年生）		２年生 （回答時1年生）	
1	**大学院スポーツマネジメントコースに興味を持ちましたか**	はい	38		42		41	
		いいえ	33		22		20	
		回答者数合計	71		64		61	
2	**質問１で①「はい」と回答した人にお聞きします。大学院スポーツマネジメントコースで学んでみたいと思いますか。**	学んでみたいと思う	8	37	3	39	4	38
		条件が整えば学んでみたいと思う	29		36		34	
		どちらかと言えば思わない	1		1		2	
		思わない	0		2		1	
		回答者数合計	38		42		41	
3	**質問２で①②と回答した人にお聞きします。あなたが上記の大学院スポーツマネジメントコースで学ぶとすれば、その目的は何ですか？（複数選択可）**	修士学位の取得のため	12		14		10	
		研究能力や知識の獲得・向上のため	23		24		21	
		ビジネスの実践的なスキルの獲得・向上のため	24		23		21	
		キャリアの選択肢を広げるため	22		29		27	
		大学教員や他の院生とのネットワークづくりのため	6		7		3	
		その他（具体的に教えてください※以下に記入）	・健康経営について研究したいため ・コロナで就活がうまく進むか怪しいから。					
4	**質問２で②と回答した人にお聞きします。どのような条件が整えば学びたいですか？（複数選択可）**	入学金や授業料を工面できれば	29		31		27	
		保護者の理解が得られれば	13		22		17	
		授業の内容が魅力的であれば	18		29		19	
		終了後のキャリアが明確なら	21		22		22	
		その他（具体的に教えてください※以下に記入）	0		2		0	
5	**あなたが大学院スポーツマネジメントコースに通う場合、どのような時間帯を希望しますか。**	平日昼間	30		33		29	
		平日夜間	3		3		7	
		週末昼間	3		3		3	
		週末夜間	2		3		0	
6	**質問5の回答の理由を教えてください**	平日昼間	夜間アルバイトのため：5 生活リズムの維持：14 回答無し：11		夜間アルバイトのため：2 生活リズムの維持：23 回答無し：8		夜間アルバイトのため：2 生活リズムの維持：17 回答無し：10	
		平日夜間	回答無し：3		仕事と両立：3		仕事と両立：3 仕事以外の活動との両立：2 回答無し：2	
		週末昼間	平日に仕事をするため：3		仕事と両立：3		回答無し：3	
		週末夜間	仕事と両立：2		仕事と両立：3			

競合校の入学者状況（体育スポーツ分野の研究科）（HP掲載より）

博士前期課程

大学	項目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	平均
筑波大学 人間総合科学研究科 体育学専攻※1	入学定員超過率	1.08	1.04	1.01	1.01	1.11	1.05
	入学者数	108	104	101	101	111	105.00
	志願者数	181	202	192	194	208	195.40
	入学定員	100	100	100	100	100	100
早稲田大学 スポーツ科学研究科 スポーツ科学専攻	入学定員超過率	1.40	2.06	2.00	1.90	1.88	1.84
	入学者数	70	103	100	95	94	92.40
	志願者数						
	入学定員	50	50	50	50	50	50
立命館大学 スポーツ健康科学研究科 スポーツ健康科学専攻	入学定員超過率	0.72	0.44	1.20	1.08	1.08	0.90
	入学者数	18	11	30	27	27	22.60
	志願者数	21	16	38	34	40	29.80
	入学定員	25	25	25	25	25	25
大阪体育大学 スポーツ科学研究科 スポーツ科学専攻	入学定員超過率	0.92	0.54	1.21	0.58	0.88	0.82
	入学者数	22	13	29	14	21	19.80
	志願者数	24	16	38	17	25	24.00
	入学定員	24	24	24	24	24	24
鹿屋体育大学 体育学研究科 体育学専攻	入学定員超過率			0.67	1.20	0.80	0.88
	入学者数			10	18	12	13.33
	志願者数			19	21	21	20.33
	入学定員			15	15	15	15

※1　令和2年度より、「体育学学位プログラム」に改組

博士後期課程

大学	項目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	平均
筑波大学 人間総合科学研究科※1 体育科学専攻※2	入学定員超過率	0.93	1.00	1.07	1.00	1.00	1.00
	入学者数	14	15	16	15	15	15.00
	志願者数	16	20	26	24	17	20.60
	入学定員	15	15	15	15	15	15
早稲田大学 スポーツ科学研究科 スポーツ科学専攻	入学定員超過率	0.85	0.90	1.15	1.30	1.35	1.11
	入学者数	17	18	23	26	27	22.20
	志願者数						
	入学定員	20	20	20	20	20	20
立命館大学 スポーツ健康科学研究科 スポーツ健康科学専攻	入学定員超過率	1.38	1.25	0.63	0.50	0.88	0.92
	入学者数	11	10	5	4	7	7.40
	志願者数	11	10	5	4	8	7.60
	入学定員	8	8	8	8	8	8
大阪体育大学 スポーツ科学研究科 スポーツ科学専攻	入学定員超過率	1.17	1.83	0.17	0.83	1.67	1.13
	入学者数	7	11	1	5	10	6.80
	志願者数	7	11	1	5	11	7.00
	入学定員	6	6	6	6	6	6
鹿屋体育大学 体育学研究科 体育学専攻	入学定員超過率			0.67	1.20	0.80	0.88
	入学者数			10	18	12	13.33
	志願者数			19	21	21	20.33
	入学定員			15	15	15	15

※1　令和2年度より、「人間総合科学研究群」に改組
※2　令和2年度より、「体育科学学位プログラム」に改組

競合校との学生納付金比較

大学名	研究科名	課程	入学金（初年次のみ）	授業料	その他	初年次合計	2年目以降合計
日本体育大学	（新設）体育学研究科 体育学専攻	前期課程	300,000	738,000	10,000	1,048,000	748,000
		後期課程					
	体育科学研究科（体育科学専攻、コーチング学専攻	前期課程	300,000	738,000	10,000	1,048,000	748,000
		後期課程					
	教育学研究科（実践教科教育学専攻）	前期課程	300,000	800,000	10,000	1,110,000	810,000
		後期課程					
	保健医療学研究科（保健医療学専攻）	修士課程	300,000	800,000	10,000	1,110,000	810,000
	保健医療学研究科（運動器柔道整復学専攻、救急災害医療学専攻）	博士課程	300,000	800,000	10,000	1,110,000	810,000
早稲田大学	スポーツ科学研究科	前期課程	200,000	926,000	80,000	1,206,000	1,204,000
		後期課程	200,000	677,000	80,000	957,000	955,000
順天堂大学	スポーツ健康科学研究科	前期課程	200,000	550,000	50,000	800,000	600,000
		後期課程					
法政大学	スポーツ健康学研究科	修士課程	200,000	644,800	202,000	1,046,800	846,800
		後期課程	200,000	470,000	202,000	872,000	672,000
東海大学	体育学研究科	前期課程	300,000	701,000	368,000	1,369,000	1,069,000
		後期課程	300,000	701,000	368,000	1,369,000	1,069,000
大阪体育大学	スポーツ科学研究科	前期課程	200,000	700,000	72,000	972,000	772,000
		後期課程					
他大学平均		前期課程	220,000	704,360	154,400	1,078,760	898,360
		後期課程	220,000	619,600	154,400	994,000	813,600